

「特別支援学校の生徒の対人関係の力を向上させるための教師支援の方法の開発と検証」

—「生活適応支援チェックリスト【知的障害特別支援学校版】と「対人関係トレーニングサポート集（TTST）」による高等部の職業の学習を通して—

○宮田 愛 吉池 久 村上 卓郎
 （東京都立府中けやきの森学園）（東京都立南大沢学園）（東京都教育庁）

KEY WORDS: 発達障害 実態把握 指導事例集

1 研究のねらい

特別支援学校に在籍する発達障害のある生徒数は全国的に増加している。東京都の知的障害特別支援学校高等部では、生徒数の増加及び障害種別の多様化に対応するため、高等部普通科における教育課程の類型化の推進を図っている。一方で、知的障害特別支援学校高等部に在籍する、発達障害のある生徒の指導内容及び方法に関する系統的な指標はなく、教師は個々の実態に応じ、試行錯誤しながら指導を行っている。

発達障害のある生徒には、相手の意図や感情の理解及び自己理解が困難であり等、対人関係における課題がある。このような障害による困難さの改善を図るために、障害のある生徒について、自立や社会参加に向けてソーシャルスキルトレーニングの導入等、適切な指導や支援の必要性が指摘されている（中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」平成23年1月31日）。

以上の指導の実態や学習指導要領の内容を踏まえ、今日的な課題である発達障害のある生徒に対する合理的配慮及び、個に応じた基礎的環境整備の充実のために、自己理解に基づく対人関係の力を知的障害特別支援学校高等部においても向上させる必要があると考えた。

そこで、本研究では生徒の対人関係における課題を教師が把握し、系統的に指導を行うための「生活適応支援チェックリスト【知的障害特別支援学校版】」（以下、「チェックリスト」と記す。）及び「対人関係トレーニングサポート集（TTST）」（以下、「TTST」と記す。）を開発した。「チェックリスト」は、生徒の対人関係における個々の課題を明らかにするために開発し、「TTST」は、教師が発達障害のある生徒の個々の課題に応じた指導内容と指導方法を理解し、実践するための指標の一つとして活用できるように開発を行った。

2 研究の内容と方法

（1）基礎研究

対人関係の指導に関する先行研究を分析した。国立特別支援教育総合研究所が全国の特別支援学校に対して実施した、知的障害の軽い生徒に必要な指導内容に関する調査では、対人コミュニケーション能力や社会生活におけるルール理解などの指導の必要性が示されている。これらの具体的な指導内容や適切な指導方法について、検討を行うことが課題であることを確認した。

（2）調査研究

生徒の社会参加に関して、必要と思われる指導内容や指導が難しい内容を把握するために、特別支援学校の就業技術科、職能開発科、知的障害教育課程高等部普通科設置校全29校の教師を対象としてアンケート形式の調査を実施し、教師226名から回答を得た。また、東京都の3市4箇所就労支援機関の職員4名を対象として、企業就労等をした特別支援学校高等部の卒業生の課題について聞き取り調査を実施した。

（3）開発研究

以上の基礎研究及び調査研究を踏まえ、生徒が自己理解を深め、対人関係における課題の改善・克服に取り組もうとする意欲がもてるようになる観点で「チェックリスト」を開発した。また、教師が生徒の対人関係の力の向上を図るための指導をサポートする観点で「TTST」を開発した。

4 効果の検証

「チェックリスト」及び「TTST」を活用し、都立知的障害特別支援学校高等部第2学年の職業類型の生徒22名を対象に、職業の授業で3時間の検証授業を実施した。

（1）「チェックリスト」の効果の検証

検証授業の事前・事後で自己評価の変化について、22名を生徒の実態に応じた学習グループ別に分析したところ、学力と作業力は高いが対人関係はやや低い傾向にある生徒の集団では、約9割の生徒が自己理解が進んだと考えられた。一方で、作業への態度は高いが学力と作業力がやや低い傾向にある生徒の集団では、自己理解が進んだと考えられる生徒は約1割であった（図1）。図1の各集団における★の生徒は、第3時の自己評価が大きく上昇している。他者評価との差が大きくなったことから、自己理解の力の向上のためには、教師が生徒に自己を客観的に振り返ることができるような声掛けを行う等の支援が必要であることが伺えた。図1の◎の生徒は、2回目の自己評価が大きく下がり他者評価との差が大きくなったことから、自己肯定感が低いことが伺えた。この生徒達には、生徒の自己肯定感を高めるためにも、「TTST」の「自分の長所を知ろう」という実践に取り組むことが有効と考えられた。

図1 学習グループ別の分析結果

<学力と作業力は高いが 対人関係はやや低い傾向にある生徒の集団>		
	小さい(88%)	大きい(12%)
上がった(62%)	8(50%)	2(12%)★
下がった(38%)	6(38%)☆	0(0%)
<作業への態度は高いが 学力と作業力がやや低い傾向にある生徒の集団>		
	小さい(10%)	大きい(90%)
上がった(10%)	0(0%)	1(10%)★
下がった(90%)	1(10%)☆	4(80%)◎

（2）「TTST」の効果の検証

「TTST」を使って検証授業を実施した結果、教師は生徒一人一人の対人関係に関する課題と改善の視点を把握して意図的な授業を行うことができました。1名の生徒を抽出して指導の効果の検証をした結果、教師が「TTST」を活用し、生徒同士で長所を見付け合う指導に重点を置いたことで、自己評価の変化から自己肯定感の向上が確認できた。

5 研究の成果

検証授業における1回目と2回目の「チェックリスト」の自己評価を比較した結果、生徒は本チェックリストを用いた取組により自己の課題を客観的に把握し、改善を図る力が付いたと考えられる。また、検証授業における生徒の変容及び教師のコメントにより、「TTST」は教師が指導に見通しをもつための一つの指標として活用できたと考えられる。

6 今後の課題

「チェックリスト」と「TTST」は、小・中学校の特別支援教室や都立高等学校の通級指導学級やチャレンジ校での活用ができるように、チェック項目の妥当性を校種ごとに検証するとともに項目内容の精査を行い改訂版を作成する。そして、各校種に応じた教師支援の充実を図る。

(MIYATA Ai, YOSHIIKE Hisashi, MURAKAMI Takuro)